

一般講演 18
白内障手術 2
Cataract surgery 2

2024年11月14日(木) 11:00-12:20
第14会場 | ザ・プリンス京都宝ヶ池 1F ロイヤルルーム

座長：鈴木 久晴（善行すずき眼科）

木講演 18-2

多施設における白内障を有する眼の浅前房眼と非浅前房眼の比較

Comparison of shallow and non-shallow anterior chambers: A multi-center study

橋本 青葉^{1,2}、鳥居 秀成¹、四倉 絵里沙¹、森 洋齊³、
後藤 聡^{4,5}、長谷川 優実⁶、神谷 和孝⁷、柴 琢也⁸、
小島 隆司⁹、永田 万由美¹⁰、松島 博之¹⁰、宮田 和典³、
根岸 一乃¹

1:慶應大、2:埼玉病院、3:宮田眼科病院、4:東京医療センター、5:大阪大、6:
筑波大、7:北里大、8:六本木柴眼科、9:名古屋アイクリニック、10:獨協医大

【目的】浅前房眼と非浅前房眼で、白内障手術前後の合併症や術前の生体計測値を比較する。

【対象と方法】国内6施設で白内障手術後、1週間以上観察できた846例1006眼（平均年齢73.5歳）を対象とした。角膜前面から水晶体前面までの長さが2.5mm以下を浅前房群、2.5mmを超えるものを非浅前房群とした。2群間における術前患者背景、術中・術後合併症を後方視的に比較した。さらに浅前房群を術中チン氏帯断裂の有無で群分けし、術前生体計測値を比較した。

【結果】浅前房群/非浅前房群の順に、平均年齢は76.5/72.5歳、女性の割合は74.7/57.4%、平均裸眼視力(logMAR)は0.70/0.82で、浅前房群で有意に高齢、女性が多く、裸眼視力が良好であった（全て $P<0.05$ ）。浅前房群と非浅前房群で、術前合併症では網膜色素変性、落屑症候群、レーザー虹彩切開術や周辺虹彩切開術施行後、術中合併症ではチン氏帯断裂、水晶体囊拡張リング・瞳孔拡張器具の使用、術後合併症では角膜浮腫で有意差を認め、いずれも浅前房群でその割合が有意（全て $P<0.05$ ）に高かった。浅前房群の中で、チン氏帯断裂群では非チン氏帯断裂群と比較し、術前の水晶体前面強主経線曲率半径が有意（ $P=0.039$ ）に小さく、水晶体後面強主・弱主経線曲率半径が有意（共に $P<0.05$ ）に大きかった。

【結論】浅前房群ではチン氏帯断裂の合併頻度が有意に高く、チン氏帯断裂群では術前の水晶体の生体計測値が非チン氏帯断裂群と異なる可能性がある。

【利益相反公表基準】該当有

【IC】取得有 【倫理審査】承認有